

情報連絡員総括表（2021年4月）

－ 静岡県中小企業団体中央会 －

本書は、静岡県中小企業団体中央会が委嘱した情報連絡員〔協同組合等の役職員 60 名〕による毎月
の景況調査の集計結果です。

1. 概況報告
2. 項目別の前月・今月のDI 値の比較
3. 情報連絡員からの報告
4. **中央会・行政への要望**
5. 主要三指標におけるDI 値の推移（グラフ）

◎売上高等の9項目につき **前年同月と比較し**、好転・不変・悪化 のいずれかを回答

$$DI \text{ 値} = [(好転組合数 - 悪化組合数) / 調査対象組合数] \times 100$$

※全項目が前年同月比「不変」となった場合は、DI 値は基準値 ±0.0(=横ばい)で推移

※「在庫数量」のみ、プラス値が高いほどマイナス要因と定義

1. 概況報告 （回答者数 60 名：回収率 100%）

○ 2021年4月のDI 値は、前月との比較において「雇用人員」を除く8指標が改善する結果となった。特に「売上高」は、前月と比較し28.3ポイント上昇し、2019年4月とほぼ同様の数値となった。

ただし、前年同月は新型コロナウイルスが全国的かつ急速に蔓延し、全国に「緊急事態宣言」が発令された時期である。その時期と比較すれば改善しているが、コロナ禍により依然低い水準で推移している。

○ 「製造業」では、前月との比較において「雇用人員」が悪化、「販売価格」が横ばい、それ以外の7指標が改善する結果となった。

金属製品、電気機械器具、輸送用機械器具製造業からは「世界的な半導体不足により、生産計画が立てにくい状況」との声が聞かれる。

繊維業界からは、アパレル製品の販売の場となる大都市圏の百貨店やショッピングセンターが休業となっている状況に、「アパレル製品の原材料となる生地の需要の減少で、事業継続が危ぶまれる」とのコメントが寄せられた。

○ 「非製造業」では、前月との比較において「売上高」「収益状況」を含めた4指標が改善、「業界の景況」が横ばい、その他3指標が悪化する結果となった。

道路貨物運送業からは、4都府県に発令された緊急事態宣言が5月末日まで期間延長されることによる荷動きの低迷を心配する声が聞かれた。また宿泊業からは「期待したゴールデンウィークも低迷し、さらに厳しい状況が続く」とのコメントが寄せられた。

道路旅客運送業では、令和2年度の県下全体の年間収入は昨年度比マイナス43.1%となっている。「巨額の負債を抱えたまま、人の流れを抑制する施策により旅客需要が回復しない」とのコメントが寄せられた。

(DI 値)

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
2021年4月	-5.0	-18.1	-8.4	-13.3	-18.3	-23.3	-13.4	-15.0	-36.6
2021年3月	-33.3	-16.3	-11.7	-15.0	-33.3	-25.0	-20.0	-13.3	-46.7
増減	28.3 ↑	-1.8 ↑	3.3 ↑	1.7 ↑	15.0 ↑	1.7 ↑	6.6 ↑	-1.7 ↓	10.1 ↑

2. 項目別の前月・今月のDI値の比較

		製造業				非製造業				全体			
		DI値	増減		DI値	増減		DI値	増減				
売上高	2021年4月	16.7	43.3 ポイント	↑	-26.7	13.3 ポイント	↑	-5.0	28.3 ポイント	↑			
	2021年3月	-26.6			-40.0			-33.3					
在庫数量	2021年4月	-13.4	-6.7 ポイント	↑	-28.6	9.9 ポイント	↓	-18.1	-1.8 ポイント	↑			
	2021年3月	-6.7			-38.5			-16.3					
販売価格	2021年4月	-3.4	0.0 ポイント	-	-13.4	6.6 ポイント	↑	-8.4	3.3 ポイント	↑			
	2021年3月	-3.4			-20.0			-11.7					
取引条件	2021年4月	-3.4	9.9 ポイント	↑	-23.3	-6.6 ポイント	↓	-13.3	1.7 ポイント	↑			
	2021年3月	-13.3			-16.7			-15.0					
収益状況	2021年4月	-6.7	20.0 ポイント	↑	-30.0	10.0 ポイント	↑	-18.3	15.0 ポイント	↑			
	2021年3月	-26.7			-40.0			-33.3					
資金繰り	2021年4月	-6.7	13.3 ポイント	↑	-40.0	-10.0 ポイント	↓	-23.3	1.7 ポイント	↑			
	2021年3月	-20.0			-30.0			-25.0					
設備操業度	2021年4月	-13.4	6.6 ポイント	↑					-13.4	6.6 ポイント	↑		
	2021年3月	-20.0							-20.0				
雇用人員	2021年4月	-16.7	-6.7 ポイント	↓	-13.4	3.3 ポイント	↑	-15.0	-1.7 ポイント	↓			
	2021年3月	-10.0			-16.7			-13.3					
業界の景況	2021年4月	-23.3	20.0 ポイント	↑	-50.0	0.0 ポイント	-	-36.6	10.1 ポイント	↑			
	2021年3月	-43.3			-50.0			-46.7					

今月の業種別回答件数

		売上高		在庫数量		販売価格		取引条件		収益状況		資金繰り		設備操業度		雇用人員		業界の景況			
		増加	減少	増加	減少	上昇	悪化	好転	悪化	好転	悪化	好転	悪化	上昇	悪化	増加	減少	好転	悪化		
製造業	食料品	2	0	1	2	0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	0	2	1	1		
	繊維工業	0	2	1	2	0	0	0	1	0	2	0	2	0	2	0	1	0	2		
	木材・木製品	3	0	0	3	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	0	0	3		
	紙・紙加工品	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		
	印刷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	窯業・土石製品	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	2		
	鉄鋼・金属工業	2	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	1	2	0	2	1	2		
	一般機器	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	3	0	1	0	2		
	電気機器	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0		
	輸送用機器	4	1	2	0	0	1	0	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1		
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
非製造業	卸売業	0	2	1	1	0	1	0	1	0	2	0	2					0	2	0	2
	小売業	1	3	0	1	2	0	0	1	1	3	0	2					0	0	0	3
	商店街	3	1	0	3	1	2	0	1	1	1	0	2					0	1	0	1
	サービス業	2	1			0	0	0	1	2	1	0	1					1	0	1	2
	建設業	0	4			0	4	0	2	0	4	0	3					0	0	0	4
	運輸業	0	3			1	1	0	1	1	3	0	2					0	2	0	2

3.情報連絡員からの報告

製造業

水産食料品	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍により先行きが不透明で、経営が難しい状況。 ・ 昨年の緊急事態宣言下での状況と比較すれば荷動きも緩やかながら戻りつつあり「好転」と言えるが、依然厳しい状況に変わりはない。あくまでも「昨年よりはマシになった」程度の事なので、資金力の弱い組合員がいつまで我慢できるのか、不安に感じている。
織物業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の影響は、昨年にも増して深刻な状況にあり、アパレル企業向けに生地を供給することが主な事業である当組合員企業は、小規模零細のため企業体力が弱く、中には資金繰りに苦慮する企業もある。 ・ 緊急事態宣言が度々発表され、アパレル製品の販売の場となる大都市圏の百貨店やショッピングセンターが休業となる現状では、アパレル製品の原材料となる生地の需要は益々減少することが予想される。小規模零細が故に目立たないが、事業継続が危ぶまれる。 ・ デパートの時短、休業要請等で主力の浴衣生地が販売不振となっている。販売量の確保が出来ず低迷が続いている。この状態が来春まで続くことが予測される。
宗教用具	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月は前年度並みの動きであったが、5月から一部の原材料の値上がりが控えていることから、収益に多少の変化は否めない。
製材業、木製品	<ul style="list-style-type: none"> ・ 米国の建築需要の増加から米国産木材の輸入量が抑えられ不足している。その影響で、木材の国産材利用転化の傾向にある。しかし原木の出材が低調なままなので、製材所では仕事があっても原材料が足りない状況。 ・ 建築用資材が不足している状況であるが、県内では大手合板工場やバイオマス発電所の新規稼働などにより、合板原料・燃料用チップ・製紙用チップの需要が増しており、業界全体で資材不足となっている。
印刷・同関連業	<ul style="list-style-type: none"> ・ インキ、輸入紙が中国の輸出政策の影響で値上がりしているのに対し、印刷価格相場が上昇しておらず利益を圧迫している。 ・ 官庁の大型入札案件では前年比で落札見積金額が大幅に下落している。特定の印刷業者が複数の案件で最安価格で落札しているが、自社で印刷せず、実質丸投げをしているところもある。相場金額が下落することで当業界は今後も厳しい状況が続くことが懸念される。
骨材・石工品等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生コンクリート出荷量の減少と設備老朽化による修繕費の増加により厳しい状況。
金属製品	<ul style="list-style-type: none"> ・ 半導体工場火災の影響により、自動車関連メーカーからの受注が減少している。元の受注状況に戻るまで2~3ヶ月かかると予測される。
生産用機械器具	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先の仕事は見えているが、新型コロナウイルスの感染症拡大による影響で仕事が増えてこない。 ・ 新聞紙面上では製造業の設備投資意欲の高まりが報道されているが、中小の現場サイドでは半導体装置関連を除き依然として沈滞ムードが続いている。
電気機械器具	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大型冷蔵庫・家庭用エアコンは国内販売が引き続き好調で生産も拡大している。 ・ 業務用エアコンは海外向けが好調に推移している。 ・ 半導体不足の影響が拡大しており、生産計画変更が頻発している。
輸送用機械器具	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍の中でものづくりが1年を経過した。未知を現実として体験したことが、大きな気力になっている。 ・ 前年同月と比較すれば改善がみられるが、直近では半導体の不足による生産計画の変更が続いており、今後の見通しを立てにくい状況が続いています。新型コロナウイルスの終息も見えない中、非常に不安定な状況が続いている。 ・ 新型コロナウイルスの影響もあり、世界粗鋼生産18億トンのうち中国が10億トンを占める状況となっている。またその中国が環境対応を理由に鉄スクラップを積極的に活用する方向に舵を切ったことから鉄スクラップの価格上昇が10年ぶりに起きている。スクラップ引き取り価格が上昇して企業にはプラス要因となっている。 ・ 受注の少ない状況が続いている。

非製造業

セメント卸売業	<ul style="list-style-type: none"> 公共関連工事の動きが全く無く低調で、4月としては過去最低の出荷量となった。
鮮魚小売業	<ul style="list-style-type: none"> 客足が多少戻りつつあったが、「緊急事態宣言」が延長された影響で、今後の状況が非常に不安である。
各種商品小売業	<ul style="list-style-type: none"> 昨年に比べれば来街者が増加している。若い世代の来街者は増えたが、年配客の来街者は少ない。 宝飾店などは、旅行に行けないお客様が、高級な宝飾品を購入するなど売り上げを伸ばしているが、飲食店は相変わらず厳しい状態が続いている。 昨年は、時短営業や休業店舗があったことから、売上げは前年と比較すれば2桁上昇しているが、業種により格差が出ている。
不動産取引業	<ul style="list-style-type: none"> 主に中国、米国での建築資材の需要の高まりにより、資材が不足している。日本国内の建築戸数の減少が予想される。
宿泊業	<ul style="list-style-type: none"> 昨年4月には全国を対象に緊急事態宣言が発出され、多くの宿泊施設が休業する事態となった。本年は、昨年4月と比較すると若干上向いてはいるが、平常時の稼働には程遠い状況が続いている。 今年も4月25日に、4都府県を対象に3回目の緊急事態宣言が発出され、期待したゴールデンウィークも低迷し、更に厳しい状況が続くと予想される。
総合工事業	<ul style="list-style-type: none"> 物件の減少の為、民間工事において受注競争が激しくなっている。 官庁工事の新年度予算のうち、普通建設事業費の投資的経費は静岡県全体で16%減少、東部地区では27.3%落ち込んでおり、業者間の過当競争が進むことが予測される。民間工事も予算的に厳しい状況ではあるが動きが出てきている。 地域によって稼働率に差が出ている。東部は100%近い可動率だが、中・西部の稼働率は80%以下が多い。受注単価は地域に関係なく日々下降している。
職別工事業	<ul style="list-style-type: none"> 相変わらず、物件自体の数が少なく、あっても着工時期が夏場のものが多く、現状では総じて厳しい状況が続いている。 ゼネコンレベルでの受注競争が激しいため、施工単価の値下げ要求も見られる。また、資材価格が高止まりしているため、労務をひっ迫している状況が続いている。公共事業の発注に望みをつないでいる状況だが、民間に関しては資材の高騰が主要因で発注者も様子見感があり、景況の好転は夏以降と思われる。
道路貨物運送業	<ul style="list-style-type: none"> まん延防止等重点措置の発令の影響か、4月は初旬から中旬にかけ、荷動きが悪い状態が続き運賃価格も下落傾向であった。4月後半にかけて荷動きが活発化してきたが、3回目の緊急事態宣言の発出後は動きが鈍くなっている。今後の新型コロナウイルスの感染状況や緊急事態宣言の延長があった場合の影響が心配される。 半導体関連の影響により、6月末まで稼働が少ない。
道路旅客運送業	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の県下全体の年間収入は前年比マイナス43.1%。金額にして109億円を超える減収。また、新型コロナウイルスの影響が出始めた昨年3月との比較は、マイナス9.9%で昨年を下回っている状況。なお、1月から3月までを平成31年の数字に置き換えると、減収額は120億円近くまで拡大。巨額の負債を抱えたまま、人の流れを抑制する施策により旅客需要が回復しない厳しい経営環境にさらされている。

4. 中央会・行政への要望

織物業より

- 支援策を活用した市場開拓に努めるが、様々な条件や制限があり利用しにくい状況である。コロナ禍で非常に厳しい状況が続く今、**助成金の実施条件緩和**とともに、**成果を目指す継続した支援**を求める。

各種商品小売業より

- 商店街の各個店での対応は、限界を超えてしまった。特に市民の自粛マインドは1年以上続き、今後も戻る気配がない。**過剰な感染症対策ではなく、バランスの取れた対策**を求める。

道路旅客運送業

- 高齢者や移動困難者の足を確保する社会インフラとして、国から事業継続を求められているものの、経営状況は悪化する一方である。**人件費やランニングコストを補填**するような、経営基盤を支える抜本的な経営支援策の導入を求める。

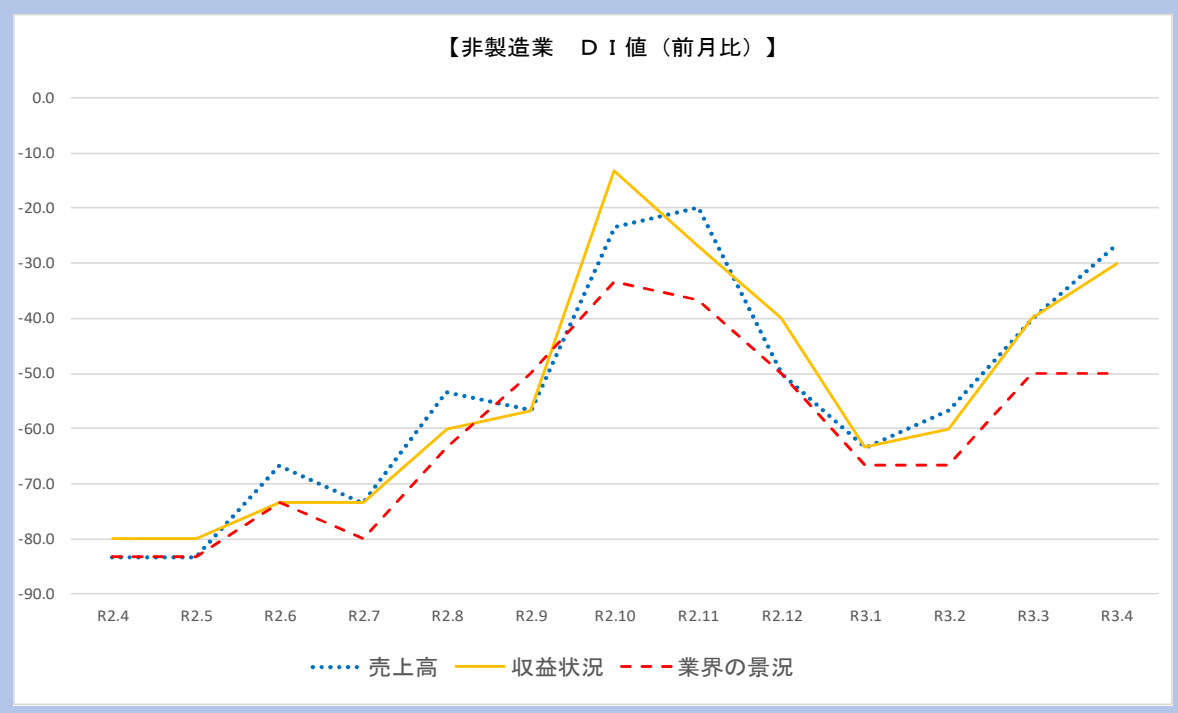
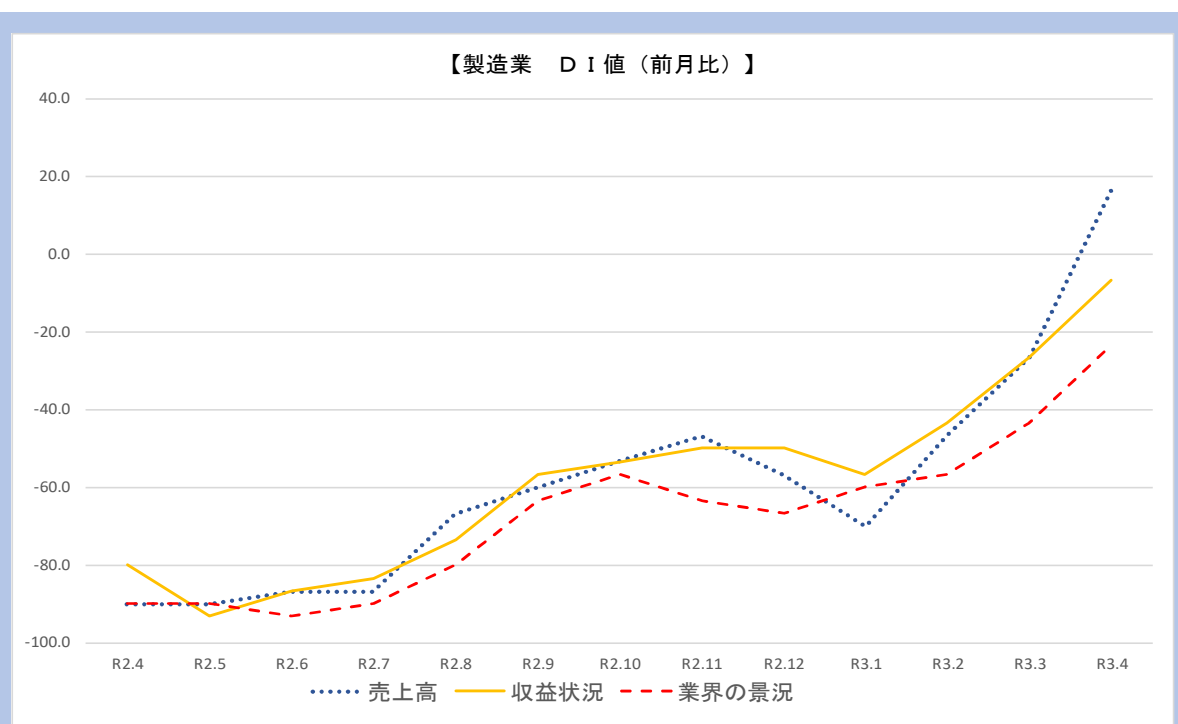
5. 主要三指標における DI 値の推移

■ 2020年4月期～2021年4月期までの推移

全体	R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9	R2.10	R2.11	R2.12	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4
売上高	-86.6	-86.7	-76.7	-80.0	-60.0	-58.4	-38.3	-33.3	-53.3	-66.7	-51.6	-33.3	-5.0
収益状況	-80.0	-86.7	-80.0	-78.3	-66.7	-56.7	-33.3	-38.3	-45.0	-60.0	-51.6	-33.3	-18.3
業界の景況	-86.7	-86.7	-83.3	-85.0	-7.7	-56.7	-45.0	-50.0	-58.3	-63.4	-61.6	-46.7	-36.6

製造業	R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9	R2.10	R2.11	R2.12	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4
売上高	-90.0	-90.0	-86.7	-86.7	-66.7	-60.0	-53.4	-46.7	-56.7	-70.0	-46.6	-26.6	16.7
収益状況	-80.0	-93.3	-86.7	-83.4	-73.3	-56.7	-53.4	-50.0	-50.0	-56.6	-43.3	-26.7	-6.7
業界の景況	-90.0	-90.0	-93.3	-90.0	-80.0	-63.3	-56.7	-63.3	-66.6	-60.0	-56.7	-43.3	-23.3

非製造業	R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9	R2.10	R2.11	R2.12	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4
売上高	-83.3	-83.4	-66.6	-73.4	-53.3	-56.7	-23.3	-20.0	-50.0	-63.4	-56.6	-40.0	-26.7
収益状況	-80.0	-80.0	-73.4	-73.3	-60.0	-56.7	-13.3	-26.7	-40.0	-63.4	-60.0	-40.0	-30.0
業界の景況	-83.3	-83.3	-73.3	-80.0	-63.3	-50.0	-33.4	-36.6	-50.0	-66.7	-66.7	-50.0	-50.0



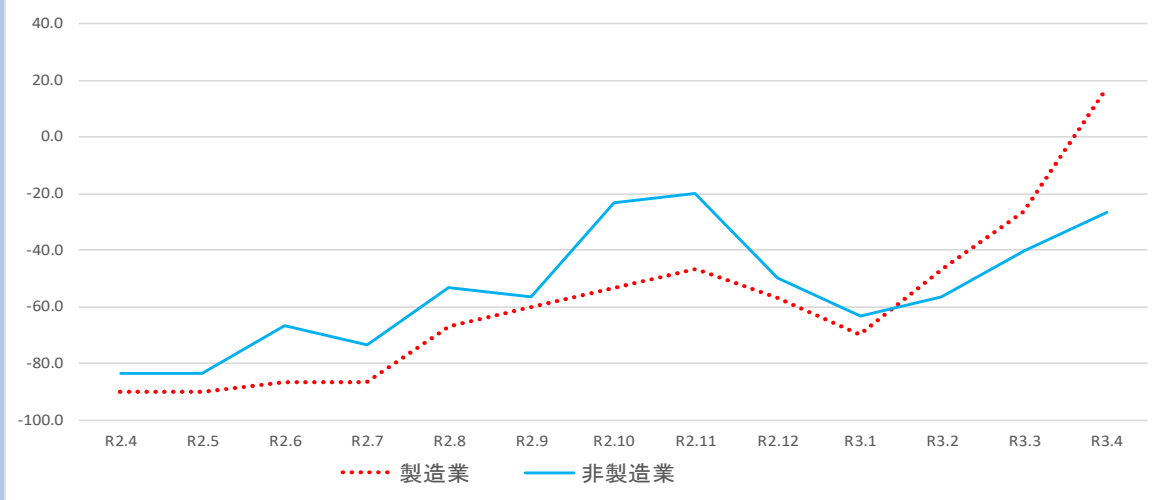
■ 2020年4月期～2021年4月期までの推移

売上高	R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9	R2.10	R2.11	R2.12	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4
製造業	-90.0	-90.0	-86.7	-86.7	-66.7	-60.0	-53.4	-46.7	-56.7	-70.0	-46.6	-26.6	16.7
非製造業	-83.3	-83.4	-66.6	-73.4	-53.3	-56.7	-23.3	-20.0	-50.0	-63.4	-56.6	-40.0	-26.7

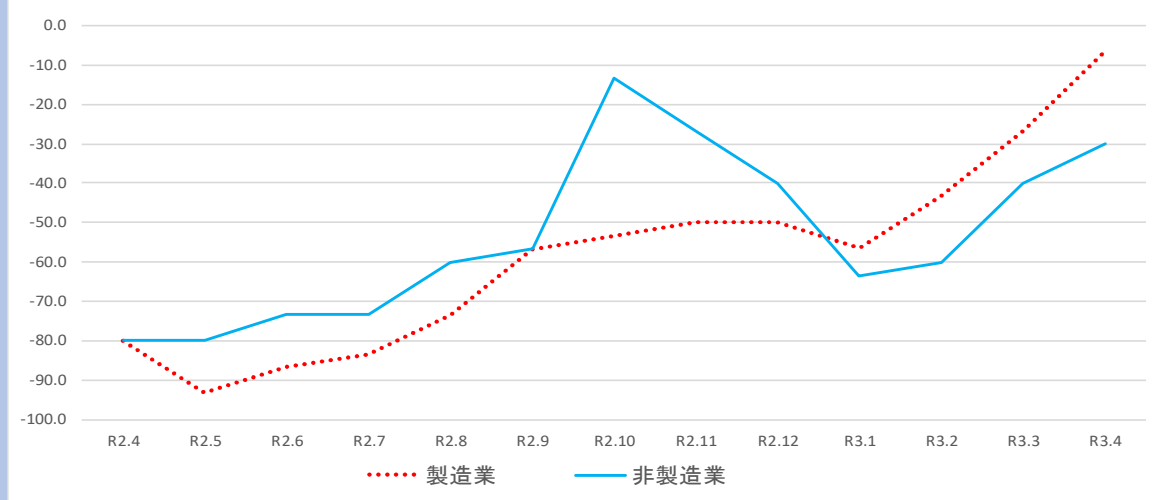
収益状況	R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9	R2.10	R2.11	R2.12	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4
製造業	-80.0	-93.3	-86.7	-83.4	-73.3	-56.7	-53.4	-50.0	-50.0	-56.6	-43.3	-26.7	-6.7
非製造業	-80.0	-80.0	-73.4	-73.3	-60.0	-56.7	-13.3	-26.7	-40.0	-63.4	-60.0	-40.0	-30.0

業界の景況	R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9	R2.10	R2.11	R2.12	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4
製造業	-90.0	-90.0	-93.3	-90.0	-80.0	-63.3	-56.7	-63.3	-66.6	-60.0	-56.7	-43.3	-23.3
非製造業	-83.3	-83.3	-73.3	-80.0	-63.3	-50.0	-33.4	-36.6	-50.0	-66.7	-66.7	-50.0	-50.0

【売上高／製造業と非製造業の比較 D I 値（前月比）】



【収益状況／製造業と非製造業の比較 D I 値（前月比）】



【業界の景況／製造業と非製造業の比較 D I 値（前月比）】

